

北九州市の文化財を守る会

会報

No. 24 53. 7. 15

発行 北九州市の文化財を守る会
北九州市小倉北区内1-1
北九州市教育委員会文化課内
電話 582-2389
印刷 冷牟田印刷合資会社
北九州市八幡西区光明2丁目
電話 601-1717(代)



野面の盆踊り (木村幸雄氏提供)

盆踊りの頃

今年もあちらこちらで盆踊りが行なわれているが、最近では昔から伝承されて来た固有の盆踊りをする地区が極めて少なくなっている。八幡西地区でも、且つては、小嶺、町上津役、永犬丸、本城、楠橋、木屋瀬、藤田などには「思案橋」と呼ばれる盆踊りがあり、上々津役足水や野面にも固有の盆踊りが継承されている。口説(くどき)と呼ばれる歌物語による盆踊りの章句も且つては存在し、「おしほ・亀松」の口説は下上津役を舞台にしているが、地元では全く消滅し、他所より章句を逆輸入している。それとも上津役地区に旧前あったものとは章句やメロディに若干差異があるように思われる。これ等の内、現在も踊られているのは町上津役、木屋瀬(所謂宿場踊)、野面の三地区に過ぎず、本城御開、楠橋、足水は戦後も踊られており、直ちに復活する事も出来るが、他は明治、大正期頃に廃絶している。

在来の盆踊りは、せいぜい歌詞以外には、節付や型付のような記録がある訳ではなく、主として、所謂地の人たちによって継承されて来たものであり、急速に住宅地化して来た地区では一般に馴染み難く、地謡いや鐘、太鼓、三味線等による伴奏も華やかさやリズムカルな点ではオーケストラに及ばず、テムポも悠長で、型も比較的単調な為、青年・子供層に敬遠されがちで、レコードによる現代的なものに押されがちである。ほめ言葉や返し言葉も、全く現代的でない為か衰滅寸前にある。県文化財に指定されている木屋瀬にしろ、地区で保存会を結成しており、伴奏も鐘・太鼓と比較的簡単な町上津役にしろ、三味線・太鼓を伴う野面にしろ、伴奏も後継者養成も必要である。一度復活を試みた小嶺の場合、七度返しと云われる技法もさる事乍ら、既に胡弓・三味線の伴奏者がなく、復活は覚束なくなっている。

八幡西区、就中郊外の住宅地化はますます進むものと思われる。近い将来には、北九州・直方道路、九州縦貫道の開通が見込まれており、野面にはインターチェンジが設けられる由。纏てモノレールも組上るに上るであろう。それに伴い、既に数年より木屋瀬・野面地区は再開発地区に指定されているようでもある。

数年来続けられて来た北九州市の民俗調査も本年は最終段階を迎え、纏めに入っている間、これ等の盆踊りが今後に残るにせよ、亡びるにせよ、或は変容するにせよ、単にノスタルジアとかアナクロニズムとかの言葉の問題としてではなく、民俗芸能の問題として、既に遅きに失してはいるが、地域の趨勢に委ねるだけではない、何等かの対応が考えられなければならない。追記・足水の盆踊りは、本年より、三味線抜き乍ら復活された。(能美)

バスによる文化財めぐり

第十六回バスによる文化財めぐりは「歴史と文化財のまち」宇佐を訪ねることになりました。当日のご説明には宇佐市文化財調査員の入学正敏先生を予定しています。参加ご希望の方はお早めに申し込みください。

日時 九月三日(日) 雨天決行
参加資格 本会会員
参加料 一人につき三千五百円
募集人員 四十五人(先着順)
締切日 八月三十一日(木)
申込方法 参加料を添え直接事務局まで
集合場所 若松区役所前 午前七時三十分
出発時間 小倉駅北口前 午前七時四十五分
昼食時間 宇佐神宮で四十分。境内に無料休憩所及び食堂があります。
帰路 小倉駅着午後六時三十分予定

催物案内

特別展 海の正倉院 宗像・沖ノ島の遺宝展
と き 7月25日(火)~8月27日(日)
(月曜日は休館)
と ころ 北九州市立歴史博物館
開館時間 午前9時40分~午後6時
観覧料 大人 50円 中学生以下無料
主 催 北九州市教育委員会、宗像大社

北九州市制15周年記念特別展 韓国の伝統工芸展
と き 8月1日(火)~10月31日(火)
(会期中無休)
と ころ 北九州市立九州民芸資料館
開館時間 午前9時~午後6時 館時間
入場料 大人 100円 高中生 70円
小学生 30円
主 催 北九州市、韓国文化財普及協会

一目で見ると教科書の移りかわり展
▶昭和53年8月15日~8月31日(無休)
▶午前9時~午後5時
▶八幡西市民センター3階 郷土資料室
(八幡西区相生町19番1号)
○教科書以外の参考教材の展示もあります。(入場無料)
○ご来場歓迎します。
●主催 八幡西市民センター郷土資料室
●協力 岡田一資料室

53年度会員数及び会費納入状況 8月1日現在

Table with 5 columns: 種別, 区別, 52年度会費, 53年度会費, 未納. Rows include 一般 (門司, 小倉北, 小倉南, 若松, 八幡東, 八幡西, 戸畑, 市外), 小計, 賛助 (法人), 団体 (団体, 学校), 合計.

見学先 (コース順)
宇佐神宮 全国八幡宮の総本宮で九州における唯一の勅祭社。本殿(国宝)や若宮五神像、銅鐘、宇佐神領大鏡、白鞘入剣(いずれも重文)をはじめ、北辰神社、高倉、西大門、南中楼門、呉橋、神興・襖絵、宇佐宮古図、八幡宇佐宮御託宣集、八幡鳥居(いずれも県指定)や三千仏図、舍利塔(いずれも市指定)など数多くの文化財が保存されている。
大楽寺 後醍醐天皇の勅願によって大宮司宇佐公連が建立した真言宗の寺院。木造仏像(重文)をはじめ、木造日光月光菩薩立像、木造四天王立像、梵鐘(いずれも県指定)や聖観世音菩薩立像(市指定)などを見学。

事務局だより

東光寺(五百羅漢) 江戸時代後期、東光寺十五世住職・玉峰道林和尚が、疫病退治と安楽浄土を祈願して日出町の石工・覚兵衛に依頼して二十年の歳月をかけて完成させた五百三十八体の石像。元来羅漢は苦業相であるが、この羅漢には美、笑、醜、涙の四面相があり、豊かな個性のある表情は、他に類をみない。
豊前善光寺 別名芝原善光寺ともいい、信濃、甲府と並ぶ日本三善光寺の一つ。本堂(重文)をはじめ、板碑(県指定)、空也上人像、鐘楼などを見学。

◇五十三年度会費を未納の方は、至急納入くださいますようお願いいたします。(年間会費)
一般会員千円、賛助一口一万円
学校関係千円、一般団体三千円
◇第十五回「バスによる文化財めぐり」(中津)に参加の方、記念写真(一枚百八十円)ができています。事務局までお送り下さい。
◇八幡西市民センター郷土資料室が市政十五周年展に作製した「年表やはた」が若干あります。希望者は事務局に申し出下さい。無料。
◇今回は八幡西支部の担当でした。新会員、住所変更等の会員消息は紙面の都合で次号に譲ります。
◇本文掲載の「八幡西区昔話集・民話と唄と方言」とは、残部が全くありません。問合せ下さい。
◇バスによる文化財めぐり、期日がありませんので至急申し込み下さい。

# 八幡西区民話と唄と方言と 聞き書き調査を終えて

政時 義明

☆ ☆  
とんと昔のことやったんじや。小嶺の浦ン谷に、子を抱かしよとか、あずき峠チいうところがあります。

これはですな。若い女が腹ごもったまま死んだんで、そこにいけちよったというんです。あすこには水だめがあつて、その付近は林で雑木がはえちよりました。

夜、そこをとると、「あずき磨げ磨げ」チいう、あずきを磨ぐ音がしよったチです。なんやろうかと思つて行つちみりや、まア姿は見えんけど、子を抱かしようチするんです。ところが、その赤子は石やつたらしいチいうことです。

死んだ女の人、赤子を腹ごもったまま埋められたもんやケ、子ども可愛いさに、化けチでて来よつたんやろうたいナ。

——小嶺・能美道男 75歳——  
あずきを磨ぎよつたチいうけん、米を磨いだともいいますたいナ。

米のとき汁で乳をこさえて育つる。そういう風なことで、子ども可愛いさですナ、その執念から「米を磨ぐから、ちよつと赤ん坊を抱いてくれんやろか」チいうて、

ところが、いつまでも、とりにこんでツしよ。それでよく見ると、赤ん坊ではなくて、石を抱いちよつたチいうことでした。

——町上津役・大和政義 73歳——  
☆ ☆  
とんと昔のことじやつたではじまる昔話というものは、語つて聞かせる人によつて、その道具立てやら、筋道がすこしずつ違つていようであります。

これは、ひとつは住んでいる場所が違うからかわかりませんが、物語りの構成、背景などを知る上からも、大変興味のあることでした。

次の物語りも、そういう素材のひとつではないかと思ひます。

てみろ、お前たちや、崇られるぞ」チ。こまいとき、よいいわれりました。

これは打首に会うたんです。二人は義民です。年貢米が納えんごとなつて、誰か身代りを出さんならんやつたんです。村中でクジを引いたら、イエモンがあたりましてナ。イエモンは、そのことを弟のキサクに相談したわけでした。

思案の揚句、二人は庄屋の家に火をつけようとしたんです。家を出る時、納屋をひよいとみると、ばあさんのへこが干してあるのに気がつきましてナ。それをもつて庄屋の家までいき、火をつけようとしたんです。ところがですナ。へこは布でツしよ。くすぶるばかりで燃えんやつたんです。

このため、どここのへこだチいうことがバレて、二人は庄屋に見つかつたチいうことです。

——穴生・秋吉源右衛門 73歳——  
☆ ☆  
これはな、殿様に納める年貢米で、萩原の分を、庄屋がゴマ化そうとしたんですナ。

それをキサクが知つたもんだから、庄屋は、「こんげもんは、どうもならん。殺さにならん」と考えチ、キサクの家からポロギレを持ち出し、自分で火をつけて消して、自分の家の軒にさしていたん

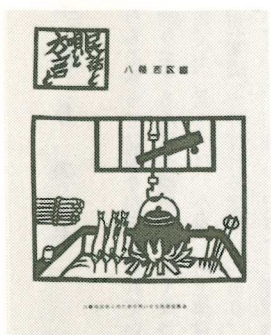
ですナ。

——森下・小役丸進 83歳——

語る人によつて、話の内容が異なつていきます。何世代か後、同じ物語りを聞いた場合、その色合いもだいぶかわつてくるのではないのでしょうか。民話を聞く楽しみのひとつが、そこにあるような気がします。

民話II所詮、それは「子どものための寝物語りであり、冬の夜の囲炉の談話であろうと思われます。そこには夢がいつばいあるのではないのでしょうか。

☆ ☆  
さて、「民話と唄と方言と」の採集の目的は、八幡西区が老人のための明るいまちづくりの推進地区に指定されたことから、その活動のひとつの事業に、口頭伝承を後世に伝える役割りを、お年寄りはもっている。また、崩れゆく故郷を、もう一度創作する上からも、



お年寄りの役割りは貴重なものだということを知っていただけだと思つて、計画したものであります。

調査地区は、陣山、黒崎、熊西、穴生、永犬丸、本城、浅川、上津役、畑、木屋瀬の十地区、10人から20人位のお年寄りにお集まりねがい、自由にお話していただきました。

しかし、採集の内容等について、くわしくお伝えしていなかったということもあつて、お年寄りの方にとまどいがあり、十分に採集できなかつた地区もあつて、非常に残念でした。

やはり、事前にしつかり打合わせをしておくのが大切だと思ひました。

☆ ☆  
昨年のウラ盆の14日、行橋へでかけました。

たしか、この7、8年前ごろまでは地唄が大八車か何かの上にあがり、そのまわりを踊り子が輪になつて盆踊りを楽しんでいましたが、もう、そんな風景はみられなくなりました。

レコードが民謡や音頭ものをガナリたてていました。

盆踊りだけではありません。年中行事でさえ、もう消滅した感があります。

黒崎の久我賢三郎老や加瀬康一

老は、黒崎のまつりのことを次のように話してくださいました。

子どもんころから、青年ごろの楽しみチいうたらね。

まず4月5日、藤田の黒田様。

7月28日の住吉様。

8月17日に海蔵庵。

8月24日は舟町の地蔵さん。

舟町は昔から手細工の人が多かった。

ダシチいうて、家の前に台をつくり、さまざま細工もんをつくて並べていたもんだ。南瓜や茄子や胡瓜で人形をつくり、家ごとで競うて陳列したもんだ。

香月の畑にも、面白い風習があつたようす。

「1月15日は、嫁じよの尻たたきですたい。嫁じよが初歩きに行きよると、村の子どもたちが、稲のワラでつくつたスボ、あれを逆たぐりにして、それでたたきよりました。

嫁じよは、着物の裾をカラげて、キャツ、キャツいうて逃げよりました。

——畑・平田タカエ 73歳——

☆ ☆  
特に、地方独特の唄なんか、現在、無くなりつつあるのではないのでしょうか。

今度の採集でも、唄の採集が思

うようにいきませんでした。

例えば地づき唄があります。

引野、浅川あたりでも、かなり歌われていたようでありますし、その村のど自慢の一人者もいました。しかし、もう永年歌つていないからと尻ごみをし、それでもという強い要望で歌つてはもらいましたが、全部とおして覚えている人はいないようでした。

ただ、本城地区で一人の老婆が素晴らしいノドを聞かせてくれました。そして、地づき唄には「返えし」のあることをも教えてくれました。

ひとつな  
だしましよか。  
はばかりながら、  
アラ ヨイヤサ ヨイヤサ  
歌の文句は  
アラ ヨイヤサ ヨイヤサ  
アラ ヨイヤサ ヨイヤサ  
アラ ヨイヤサ ヨイヤサ  
つれしや後から  
コラ 後から  
コラ 後から

歌の文句は  
アラ ヨイヤサ ヨイヤサ  
アラ ヨイヤサ ヨイヤサ  
つれしや後から  
コラ 後から  
コラ 後から

あなた ひとりか  
つれしはないか。  
アラ ヨイヤサ ヨイヤサ  
つれしや後から  
コラ 後から  
コラ 後から

☆ ☆  
後から かくで  
かくで後から  
コラ 後から

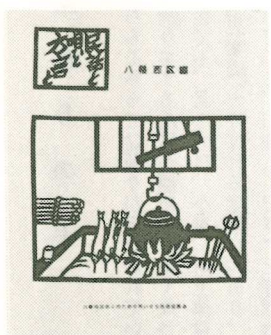
ですナ。

——森下・小役丸進 83歳——

語る人によつて、話の内容が異なつていきます。何世代か後、同じ物語りを聞いた場合、その色合いもだいぶかわつてくるのではないのでしょうか。民話を聞く楽しみのひとつが、そこにあるような気がします。

民話II所詮、それは「子どものための寝物語りであり、冬の夜の囲炉の談話であろうと思われます。そこには夢がいつばいあるのではないのでしょうか。

☆ ☆  
さて、「民話と唄と方言と」の採集の目的は、八幡西区が老人のための明るいまちづくりの推進地区に指定されたことから、その活動のひとつの事業に、口頭伝承を後世に伝える役割りを、お年寄りはもっている。また、崩れゆく故郷を、もう一度創作する上からも、



お年寄りの役割りは貴重なものだということを知っていただけだと思つて、計画したものであります。

調査地区は、陣山、黒崎、熊西、穴生、永犬丸、本城、浅川、上津役、畑、木屋瀬の十地区、10人から20人位のお年寄りにお集まりねがい、自由にお話していただきました。

しかし、採集の内容等について、くわしくお伝えしていなかったということもあつて、お年寄りの方にとまどいがあり、十分に採集できなかつた地区もあつて、非常に残念でした。

やはり、事前にしつかり打合わせをしておくのが大切だと思ひました。

☆ ☆  
昨年のウラ盆の14日、行橋へでかけました。

たしか、この7、8年前ごろまでは地唄が大八車か何かの上にあがり、そのまわりを踊り子が輪になつて盆踊りを楽しんでいましたが、もう、そんな風景はみられなくなりました。

レコードが民謡や音頭ものをガナリたてていました。

盆踊りだけではありません。年中行事でさえ、もう消滅した感があります。

黒崎の久我賢三郎老や加瀬康一

気にかかるところもありました。湯呑みの酒をグツと飲み干して、「実はなア」と語りだしますと、それはそれは面白い程話ごとびだしてきます。

おばあちゃんや陽気な人がいますね。タマゴ酒一ぱいで上機嫌になり、方言丸だしの会話となつてしまつたこともありまして。

「川に遊び行くと、親があつて、色が黒なるきつたらんチいうておごりよりましたとです。それで行くごたならんやつたとですよね。

親が「行たかチ、たんぬるき、うちやいぢやらん」チいうたら、「足にキンツナがついぢよるき、いつちよるが」と、いわれたとです。

——木屋瀬・松岡喜代子 69歳——  
「澄んちゃん、どげしよつちない。はんごしよつちない。

ちよつと、まつちよきない。まだ顔をブリブリしてからいこうわない。

☆ ☆  
今日は、何を着ちいつちない。

☆ ☆  
今日はカスリで、ようはねえかな。ネルじゃ、まだ暑はなからうかなあ。はきもんはどげしちいつちない。

☆ ☆  
今日はぞうりをへいちいう。それでようはなからうか。ちよつと待つちよきない。すぐ行くわない。」

——穴生・古賀満 65歳——

☆ ☆  
方言と申しますと、使う人が少なくなつてきました。テレビ、ラジオ等のマスコミの影響、交通機関の発達に伴う人間の交流などによるものでしょうが、町上津役の大和老は、「みんな軍隊へ行つて標準言を使わされたもんで、方言を使わなくなつた」と、教えてくれました。言葉も平均化してきたことは事実のようであります。

☆ ☆  
とんと昔の話ですナ。じいちゃんが、よう話して聞かせよんなつた。

中ン谷チいうて、ダム(畑)の底になつとるけんどナ。善七さんチおんなつたたい。下ン谷には正五郎さんチおんなつたたい。

むかしや、寄り合ひチいうたら日が暮れてから集まりよりましたもんナ。

☆ ☆  
タノキが正五郎さんに化けてナ。「善七さん。みんなきよなるキ。早ようこんな」チ、下ン谷の白木谷の入り口から、おらごるとたい。

「なにやツ」チいうて、善七さ

んが行こうとしてなら、白木さえ行く道に大きな坊主が、こげしちよるチ(手を広げる様子)。「くそつ。だまかすならだまかせ」チいうて、「どっちが性がいいか、勝負しよう」チ、うちさへ帰つちよつたら、又、「善七さん」と、おらぶチたい。

白木の入り口に橋がありましてすたい。後、道にたきもんを、たいそう持つちいって、ごんごん火を燃やしたもんやき。それから畑では、タノキが化かさんごとなつたと話して聞かせなつたですばい。

— 畑・藤村イト 80歳 —

山里の畑に住んでいる藤村イトさんからの聞き書きであります。方言というのは、文字で表すよりも、あの独特の語りといえますか、ニュアンスがなんともいえなひびきをもっているようであります。

☆ ☆ 調査をしながら気づいたことは、例えば馬の首が下がるという怖しい場所、人が寄りつかない場所ということで、陣山、本城、木屋瀬がありましたが、それをもっと具体的に「たたりじゃ」ということで話してくれたのが、引野の「古賀さま」。畑の「ギイチかかあが下がる」などであります。

その他、洞海湾にまつわる話になりますと、陣山、黒崎、熊西、本城などがあり、河童のことになりますと、陣山から洞海湾の河童。黒崎バチ川の河童の相撲。木屋瀬の遠賀川の河童の肝取り程度でした。

☆ ☆ 消えゆく昔の姿。

地区をまわるたびに、お年寄りからでる言葉は決まって、「あのじいさんがいたらなあ」とか、「あのばあさんがくわしかつた」という、あのじいさん。あのばあさんの話ばかりでした。

あのじいさん、あのばあさんは、すでに死んでしまっています。もし生きていたら90歳を越える人ばかりのようであります。

わたくしたちに話を聞かせてくれたお年寄りの大部分は、70代から80代の人でした。

もうこの世代になりますと、半分程度の昔話は残っていますが、それ以上は無理のようです。そして60代の人になると、どうでしょう。もつと話題が乏しくなっています。

唄にしても同じことがいえます。もみまきから田植え、稲刈りから白すり唄のように農作業の唄にしても、一にぎりのお年寄りの記憶の片すみに息づいているに過ぎません。方言も変化しつつあり

なんとかしなければなりません。採集の労を急がなければ、わたくしたちの周りから、昔からの唄、方言、そして民話がなくなつていってしまうような気がしてなりません。

北九州市文化財保護、審議会委員改選さる

北九州市文化財保護審議会規則に基く審議会委員の任期がこの七月で満了し、新に左の十二名が就任、五十五年七月までを担当されます。(順不同、分野別) ◎印会長、◎印刷副会長)

Table with 3 columns: 専門分野, 氏名, 備考. Lists members of the Cultural Heritage Review Committee across various fields like History, Art, and Archaeology.

養福寺貯水池出土の海獣化石について 竹中岩夫 た。鑑定に見えた京都帝大の先生は「鰐状の動物で約二万年ほど前のもの」と述べられた。たまたま皇后陛下が福岡においでになったのでお目にか

竹中岩夫

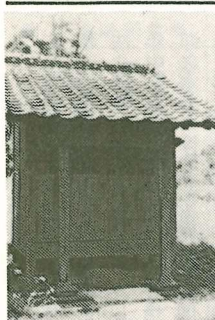
八幡西区養福寺町にある養福寺貯水池は、官営製鉄所が遠賀川からの揚水を貯水するため設けたもので、大正七年七月に着工され、昭和二年十月に完成した。昭和三十四年のことだが、私は金丹王屋敷調査のため引野の古老岩崎美憲氏(故人)を訪ねたとき、同氏から次のような話を聞いた。(当時書きとめたメモによる)

私は大正九年から養福寺貯水池建設工事現場の事務所まで書記をしていたが、翌十年のことだったと思う。堤防の基礎になる岩盤を掘っていた作業員が「変なものが見付かった」と知らせてきた。

そこで石屋に頼んで丁寧に露出させたところ、動物の脊椎骨と思われるものが二本現れた。一本は長さ約一丈(約三メートル)、他の一本はそれより若干短かく、いずれも肋骨と思われるものを伴っていたが、接近していた頭部はどちらもマイトで吹き飛んでい

現在もこの化石の所在については分らない。ただ、その肋骨の一部という小片が永大丸岩渕の岩渕次三氏によって保管されていたが、同氏の死後亡失している。昭和四十一年四月のこと、当時小学生だった長男が夏休みの宿題に岩石採集をしたと言うので、ちょうど建設中だった引野浄水場(八幡西区竹下町二七番)の現場に連れて行ったところ、長男が動物の化石を採取した。(長さ九、三センチ、重さ七一五グラム) 去る七月、市の自然史博物館開設準備室の太田正道氏に鑑定をお

建物 四間 式間五尺 敷地坪数 四拾貳歩村持稅地 右者遠賀郡上々津役村浄土宗称養寺住職末松浄譽受持卜定メ永統之方法ニ於而ハ醸金ヲ以年中ノ祭典ハ勿論臨時修營等信仰之本旨ニ悖ラザル様可任候間掘置度信徒惣代連署ヲ以此段奉願候也 筑前国遠賀郡上々津役 信徒惣代 明治十二年 吉武與七 六月 吉武惣三 浄土宗称養寺住職 末松浄譽 福岡県令渡辺清殿 (イ)仏堂掘置願 薬師仏堂 同郡同村字芋ヶ葉山 仏像 薬師如来 勧請建立 年月不詳 建物 四間 式間五尺 敷地坪数 拾壹坪三合式夕 所有地敷地并二林共二 四畝拾八歩 地価金 三円六拾九錢壹厘 百分二ヶ半九錢三厘 観音仏堂 同郡同村字足水 仏像 千手観音 勧請建立 年月不詳 建物 式間七歩 式間四歩 敷地坪数 六坪四合八夕 所有地并二田畑林共 貳反貳畝壹歩 地価金 貳拾貳円貳拾壹錢八厘



養安寺

願いしたところ「芦屋層」に包含されていた「ハクジラ」(歯鯨)の脊椎骨化石と思われる。また、養福寺貯水池から出土した二分体の化石もその可能性が高い」とのことである。 「芦屋層」とは北部九州における新世代第三紀漸新世下層で、今から約三五〇〇万年前に形成された砂岩・頁岩から成る地層のこと、北は芦屋町山鹿・若松区岩屋海岸から、水巻町・中間市・八幡西区の折尾・永大丸・引野を経て、池田付近まで及んでいる。 こうした化石は抹香鯨などが層する「ハクジラ類」の祖先で、体長は二〜三メートル、北九州市内では馬島からも出ているとい

養安寺雑記

能美安男

現八幡西区、八幡東区、戸畑区よりなる旧遠賀郡の東部地区を対象とした「帆柱四国」と呼ばれる遍路修行の札打ち霊場がある。これは四国八十八カ所に倣い明治三十一年七月に創設、開山されたもので、「大師遍照金剛薩埵の霊場」八十八カ所を定め、札所を巡り、「菩提の覚路をここに求め三密加持の法益を蒙り三宝に帰依し……この功德を以てて末世五濁の澆風を変じて四恩の広徳に酬い三宝の妙道を一段と興さむことを」目的としており(帆柱四国本部編「帆柱四国」前書、各地にある〇〇四国と呼ばれる札打ち霊場の一つである)。

札所は現行(昭和三十八年)では、八十八カ所、及び番外三十五カ所の一二三霊場よりなっている。その大略を帆柱四国本部編の昭和三十八年改版「帆柱四国霊場」に振り示めすと表の通りである。これ等は寺院に付随したものもあるが、多くは無住の小堂に過ぎず、信者や地区の世話人により維持されている。八幡西区では住宅地化に伴う地域の変貌にも拘らず維持

されており、第六〇番金山、第六二・六三番無量寺、第五四番観音堂等は最近改築されており、五四番番外の清水ヶ池は「役之郷清水ヶ池古駅水」の碑で知られているが、その古駅水も、市の援助もあり、立派に修復され、井戸は再び澄んだ水を湛えている。又、第一・二番の釈迦堂が黒崎より鳴水黒ヶ畑へ移転したのを始め、山が削り取られ、敷地が西鉄小嶺自動車営業所になった為、大原基地に移転した第五六番大日庵、新幹線にかかり、脇に改築移動した第四七番観音堂の如きもある。 今年の正月、第六四番養安寺の本尊薬師如来を見る機会を得た。 旧前より養安寺の仏像は古い由の伝聞は耳にしていたが、伝承に天平宝字等の年号が出る為、外から覗くだけで、調査もせずにはいた。 その上、直ぐ近くに東光山無量寺(通称、足水の観音様)があり、そこには、天文年中の竹尾城主麻生氏の祈願所の本尊であったと思われる北九州でも屈指の聖観世音菩薩坐像がある為、さして食指が動かなかったのかも知れない。



木造聖観世音坐像(足水観音堂) 勧請建立 年月不詳 仏像 薬師如来 字芋ヶ葉山

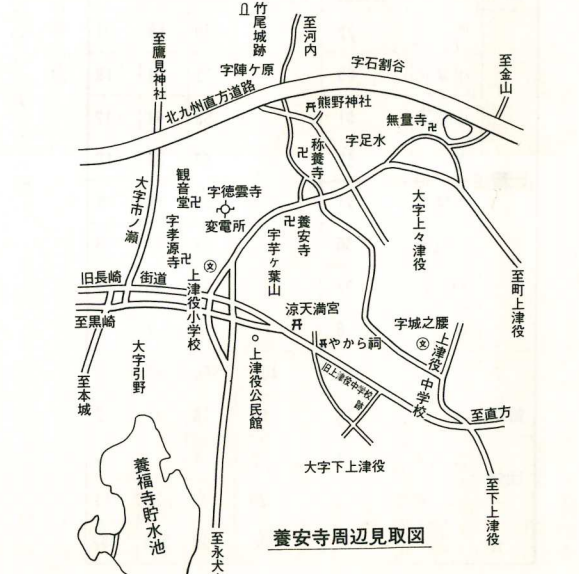
薬師仏堂 遠賀郡上々津役村 字芋ヶ葉山 仏像 薬師如来 勧請建立 年月不詳 建物 四間 式間五尺 敷地坪数 拾壹坪三合式夕 所有地敷地并二林共二 四畝拾八歩 地価金 三円六拾九錢壹厘 百分二ヶ半九錢三厘 観音仏堂 同郡同村字足水 仏像 千手観音 勧請建立 年月不詳 建物 式間七歩 式間四歩 敷地坪数 六坪四合八夕 所有地并二田畑林共 貳反貳畝壹歩 地価金 貳拾貳円貳拾壹錢八厘

番	寺院 祠堂名	本 尊	略 所 在 地
1	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
2	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
3	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
4	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
5	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
6	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
7	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
8	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
9	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
10	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
11	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
12	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
13	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
14	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
15	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
16	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
17	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
18	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
19	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
20	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
21	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
22	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
23	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
24	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
25	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
26	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
27	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
28	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
29	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
30	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
31	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
32	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
33	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
34	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
35	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
36	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
37	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
38	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
39	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
40	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
41	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
42	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
43	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
44	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
45	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
46	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
47	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
48	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
49	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
50	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
51	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
52	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
53	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
54	釈迦光運	如來	水戸区鳴水
55	釈迦光運	如來	水戸区鳴水

備考：昭和38年、帆柱四国本部編「帆柱四国霊場」に拠る。  
 註 ① 香徳寺は安養寺となっている。  
 ② 原本では安養寺となっている。  
 ③ 馬頭観音の誤カ

として有ったものを近世に移したものと云う。第四五番専福寺境内の釈迦は明治十二年に田代寿三郎氏の夢告により土中より掘り出されたものと云われ、流れ伝ではあるが第四六番の笠観音と共に八幡八幡宮(旧社地中尾上)の本地仏ではないかと推測されるものがある。また、第五四番観音堂の設置には明治六年の筑前騒擾が契機となつている等挙例に違がない。平素、殆どの者が、単に路傍の小堂、路傍の仏として気にも留めず看過していると思うが、偶には関心を喚起すると共に、未だ保護策の執られていないものに対しては愛護の念を新し度いものである。

番	寺院 祠堂名	本 尊	略 所 在 地
55	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区永丸
56	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区町上
57	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区小上
58	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
59	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
60	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
61	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
62	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
63	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
64	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
65	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
66	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
67	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
68	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
69	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
70	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
71	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
72	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
73	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
74	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
75	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
76	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
77	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
78	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
79	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
80	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
81	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
82	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
83	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
84	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
85	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
86	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
87	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上
88	大観観彌金池	佛菩薩	八幡西区上上



右は遠賀郡上々津役村浄土宗住職末松浄譽受持卜定メ永續之方法ニ於テハ右所有地作徳米ヲ以年中之祭典ハ勿論臨時修営等信仰之本旨ニ悖ラサル様可仕候間据置度信徒惣代連署此段奉願候也

筑前国遠賀郡上々津役村  
 信徒惣代 吉武与七  
 明治十二年 竹森卯七  
 同国同郡同村浄土宗  
 称養寺住職 末松浄譽

福岡県令 渡辺清殿  
 前書之通相違無之候ニ付奥印仕候也

上々津役村 戸長 能美伊三  
 小嶺村 戸長 能美伊三

養安寺は旧前は、通称「養安寺の坂」と呼ばれた宇ヶ葉山の路傍にあるが、右の(イ)のどちらを指しているのか不明乍ら両者共葉師如來を本尊としている。筑前国續風土記附録は「○葉師堂タニ養安寺といふ寺跡也(川添昭二校訂、文献出版、中巻二二八頁)」と記しており、養安寺は帆柱四国開山以前より有り、本尊は葉師如來と考えられる。序乍ら、無量寺・足水の観音様は千手観音とされているが、現存本尊は聖観音であり、同仏の光背支柱の修覆銘より文化十年には既に無量寺の本尊として

百分二ヶ半五拾五錢八厘  
 祀られていた事が明白であるので、村の口碑では千手観音であったか、千手観音が別にあつたか、誤記のいずれかであろうが、いずれにせよ十一面観音ではない。

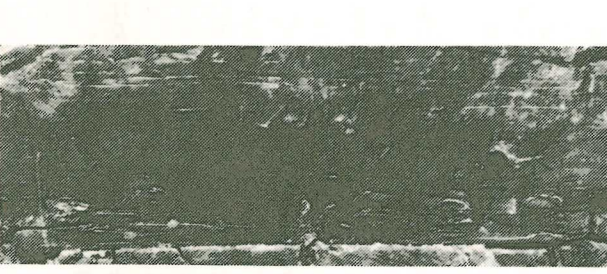
現存の養安寺の葉師如來像は、高さ一〇・五厘の蓮華座の上に吉祥座の結跏趺坐像で、坐高四〇・〇厘、両膝間三四・五厘と小さな仏像である。以前は両手を欠いていたと思われるが、近時地区の人により、写真に見るように些か自然乍ら、施無畏印の右手と葉壺を持った左手及び光背が補修され、塗装が施こされている為、旧態は分明ではなく、美術的にはその価値を減じている。両手や塗装がないものとして推察すると、相好、均斉等整った仏像ではある。それにもまして養安寺の葉師如來をここで紹介するのは、その底部に、一部消滅した所があるが、次の記銘があるためである。

奉再興大日本〇〇  
 前州水巻郡上津  
 役村面白山永安禅寺  
 葉師琉璃光如來  
 且那〇〇成建立勸  
 進輩者佛果〇〇  
 成正覺者〇〇  
 殊者天下太平國土  
 安穩万民受樂  
 也  
 天文十九庚戌十月  
 文岳金石衛門敬白

この銘文より、この葉師佛は天文十九年(一五五〇)に何等かの事由で再興されたものであること、永安寺は山号を面白山と云い、禅宗の寺院で、少なくとも天文十九年以前よりあつた事、寛文四年(一六六四)に旧称に復するまでの遠賀郡の呼称「御牧郡」は「ミマキ郡」と読む事等を知り得る。中世の上津役村(後に小嶺、下上津役が分離し、上々津役村となる)には少なくとも無量寺・永安寺・徳雲寺の三寺が有つた事になる。無量寺は竹尾城麻生氏の祈願所として、同村石割谷、通称観音屋敷に創設されたものと云われる。徳雲寺は現在上々津役に小名として残っているが、寺は慶長の初年に若松区二島に移されている。本会報23号に紹介されている今年三月北九州市文化財に指定された梵鏡の所有者徳雲寺がそれである。

中世の上津役村には竹尾城、市瀬城、馬乗城と三カ所に城砦が設けられている。上津役が記録に現れるのは、夜久駅は別々として、

現在の所麻生文書の建長元年(一二四九)、麻生資時に対する北条時頼下文以降であり、資時の子資氏三男頭貞の項に上津役の書入れも見得るが(九州資料叢書39、麻生文書88頁)、竹尾築城はいつの事かは明確ではない。麻生家延以降の事とする文明く永禄の頃とも考えられるが定かでない。市瀬城は香月家々記の云う如く、香月五三郎則村が築城したとすると、則村は西征將軍の家臣勅使河原小三郎の子と云うので、十四世紀後半から十五世紀にかけての頃であり、城のあつたとされる観音原は字徳



雲寺に当る。馬乗城は現上津役中学校の附近、字城之腰に在つたと云うが、恐らく皆で委細は不明である。一説には麻生、乃至香月氏の臣笹岡某を皆主としたとも云う。香月興則の頃と云うので十五世紀後半頃の事であろうか。

養安寺周辺には、現在「寺」の字のつく小名として、前記徳雲寺の他に市瀬に孝源寺、引野に養福寺がある。仮に之等も寺院名だとすると、之等を含めて、無量寺が竹尾城の祈願所であつた如く、養安寺等は市瀬城、及至は竹尾城に關係を有したのであろうか。方角的には見取図の通りであるが、文岳金石衛門が如何なる人物か不明であり論じ得ない。

帆柱四国各札所の本尊は名目的には表に示す通りかも知れないが、実際には無量寺に限らず何等かの歴史的意味を有する仏像等がある事と思う。八幡西区に限って見ても、第四番東光寺、第一番西光寺は中世に春日神社が上の銘にあつた時の神宮寺であつたが、後に前者は阿弥陀庵、後者は東光庵となり藤田の裏町に移されたとも云う。本尊光背の裏に「元龜二年辛未三月十七日春日神社大宮司波多野掃部大夫再興云々」の銘があつたとも云う。第五番浄蓮寺の地蔵尊は八幡区内では屈指の作として知られ、第一番釈迦堂、第六番海蔵庵は中世山寺八王寺社の寺